

## 2 研究内容のポイント

①世界観光機関（WTO）の長期予測によると、2020年には現在の欧州、北米に次いで、北東アジア地域が新たな第三の観光交流圏になる可能性がある。②2001年の域内の人的往来を見ると、域内諸国間の観光流動が活発化しており、この地域の平和発展がいかに重要かを物語っている。③北東アジア観光交流圏を3つに分け、それぞれのブロック内の観光流動を分析すると、日中韓観光ブロックが最も重要な地位を占めているが、他のブロックは、まだ活力に欠ける。④現状、北東アジア観光交流圏形成に向けての途上にあると言えよう。

## 3 今後の課題

各ブロック内での観光流動を高めるためには、①地方レベルでの多面的交流（2国間文化、スポーツ、経済交流etc.）を積み重ねる、②新観光地の開発（日中共同開発など）、③観光流動の受け皿づくり（インフラ整備などのハード面、接客マナーなどサービスの向上・観光関連の人材育成などソフト面のレベルアップ）などが当面の課題であろう。将来、各ブロック内での活力が高まり、ブロック間の交流が進めば大きな観光市場が形成されよう。

---

## 渤海国旅遊路の開発整備に関する研究

佐々木宏茂（東洋大学）  
青木雅明（東洋大学）

### 1. 旅行の第2ステージのコンセプト

観光とは、日常の生活地域を離れ、他の土地の風景や史跡などを見物し、楽しみながら旅行をすること（sightseeing）である。人は非日常的な世界を求めて旅に出、先ず旅行先の鮮烈な風景や風俗習慣に触れてリフレッシュする。

さらに、その土地のモニュメント（記念碑・記念像や歴史的遺物・遺構）に触発されて過去の事件や風景、往時の人間生活の様態などに想像を巡らして、興味と感動を覚えることが多い。その場合、人は時の流れを遡ってもう一つの旅をしてみると見ることができる。それは旅先の土地から再び出発して、既に消滅した過去の世界に「旅遊」することを意味する。

この点に着目すると、旅行の行程は2つのステ

ージから構成されていることに気が付く。それらは現代の世界における旅と過去の世界における旅、あるいは現実世界における旅と想像世界の旅である。そのため、その第2ステージの旅程における楽しさと興奮が大きければ大きいほど、旅行の全行程の価値は増大しよう。

地球上の主要な観光地を見尽くした人も少しずつ増えているが、そのような旅慣れた人々の多くは、モニュメントを介した過去の人間世界への旅遊を好むように思われる。

観光ルートに魅力的なモニュメントと適切な関連サービスを組み込むことによって、旅行者は遠い過去の世界へと旅立ち、そこで回想と想像を楽しむ、充実した旅遊を体験することが出来る。それは、旅行者、地域社会、旅行産業の三者にとってそれぞれ価値を増大させる。

## 2. 渤海国の遺跡を組み入れた環日本海観光ルートのご構想

中国東北地方に実在した渤海国（698～926年）の歴史と遺跡・遺物はそうした役割を果たすことができるものと期待される。渤海国の使者は千年以上前に季節風と海流を利用して日本海を渡り、日本の平城京、平安京などと頻りに交流していたため、日本人旅行者にとっては、同時代の唐の遺跡より親しみが持てる。

日本海を囲んで日本列島、朝鮮半島南部、中国東北地方を巡る観光ルートに、「研究され、復元されつつある渤海国遺跡」、そして将来には「再現された渤海国」が組み込まれれば、旅遊効果は著しく高まるものと考えられる。

その概念を構成すると、まず、航空路、幹線鉄道および高速道路によって連結された東京＝大阪＝ソウル＝大連＝瀋陽＝長春＝ハルビン＝新潟＝東京という大都市回廊がある。それぞれの大都市では、高水準かつ多様性に富んだ都市サービス、特色のある都市文化を享受することができるので、そこには旅行の大きな部分が割り当てられる。

この回廊から鉄道、道路によって連絡された吉林、敦化、牡丹江、延吉などの地方中心都市があり、その先に渤海国の遺跡や遺物埋蔵地が広く散在している。遺跡としては、相互に100～300キロ離れた上京竜泉府（黒竜江省寧安市渤海鎮）、中京顯徳府（吉林省和龍市）、東京龍原府（吉林省琿春市）、西京鴨緑府（吉林省臨江市または撫松市）などの中心都市遺跡がある。また、朝貢道、日本道、営州道、契丹道、新羅道などの交通路遺跡、多種多様な産業遺跡の他に、平城、山城、寺院、墓地などの遺跡がある。さらに、遺跡・遺物は存在しないであろうが、民家、民具、衣服、食物、生活慣行、信仰、交通手段、農耕様式、森林の存在および利用状態、狩猟方式、武具、軍事・政治・行政の仕組み、社会経済の状況、対外交流

などについては、部分的にせよ推定と再現の可能性があろう。

渤海国と同様、唐（618～907）文明の強い影響を受けた日本、新羅、百済の遺跡・遺物は、この回廊に沿った奈良市（平城京）、京都市（平安京）、韓国南部の慶州市、同忠清南道などに集中している。したがって、これら古代文化の相互比較も容易に可能となろう。

## 3. 構想実現の基本方針

上記のような構想に沿って渤海国の遺跡・遺物の価値を高め、旅遊効果を発揮させるためには、次のような基本方針をとることが必要である。

- ① 渤海国の遺跡・遺物の存在状況を全体的に調査し、それに基づいて遺跡遺物を保全するための有効な方法を確定し、これを速やかに実行する。
- ② 各国の専門家や支援者の協力を得て遺跡遺物の研究・発掘・復元を進行させ、同時に旅遊客を迎え入れ、十分な展示および解説サービスを行う。そのためには、時間の経過に沿って遺跡のある各地域の施設整備を総合的に進める方法を研究するとともに、その成果に基づいて詳細なプランを組み立て、これを確実に実行する。
- ③ 研究および展示・解説のためには、遺跡・遺物を基礎にした復元作業が必要となる。しかし、実物復元には膨大な費用と時間がかかるので、コンピュータ・グラフィックスを用いた立体映像の作成を先行させて、その成果を十分活用する。
- ④ 安全、清潔、簡易、低廉な休泊施設、歩道、輪道を先行整備する一方、新型交通施設（燃料電池車、リニヤモーターカーなど）や自然エネルギー（太陽熱、風力）を導入して、環境悪化の少ない観光活動の先行事例を創出する。また、環境汚染を基準値内に抑制する措置をとる。
- ⑤ 開発整備の過程では、考古学、古代歴史学、観光学、経済学、地域の計画および実践、社会奉仕などのフィールドにおける教育訓練を組織的に組み込む。

なお、渤海国の存在した228年間に34回の渤海使が来日し、15回の送・遣渤海使が派遣された。その時には、多数の人員、貴重な進物・交易品を積んだ木造帆船が海流と風を利用して日本海を渡ったのであり、その造船技術と航海術は興味深い。これを再現するイベントも実行可能であろう。

#### 4. 「渤海王国の再現」をモチーフとする学術観光地域の整備振興 — 渤海王国プロジェクト

広い範囲に残された歴史的遺産を研究、発掘、復元をし、また必要な施設を整備することによって、1000～1300年前に存在した渤海国への旅遊が可能となる。それは人々の知的な好奇心と探求心を刺激し、内外の観光客を楽しませ、同時に観光産業を核にして地域全体を整備・振興させる可能性が高い。

ここまでくると、ディズニーランド、ディズニーワールドによって開かれたテーマパークの時代を超越したいという誘惑に駆られる。もし渤海王国の遺跡・遺物をその全版図にわたって発掘・復元し、その政治・経済・社会の慣行、文化、生活、自然などの多くを再現することが出来れば、テーマパークの次の時代の扉を開けることになるのではなかろうか。そこでは、渤海王国の再現のための研究と事業が進められ、それによって再現したもの、その途上にあるものの全体が観光の舞台に提供されることになる。

渤海国の版図は現在の中国領内において約30万平方キロメートルとみられるので、まずその全面積を「渤海王国の再現」をモチーフとする地域と定め、適当な場所にはシンボルマークとともに「再現渤海王国」の表示をする。また、その地域内の要所には復元中の遺跡・遺物やその展示施設、研究施設、宿泊施設からなるシンボルゾーンを設ける。それらは王国内で数十から数百カ所に

上と考えられるので、好ましい旅遊路によって相互に連絡される必要があるが、復元される上記5道の陸路と水路もその中に含まれる。

中国領内のこうした学術観光が成功すれば、北朝鮮、ロシアも自国領土内の該当地域において同様のプランを希望するに違いない。2国内の再現渤海王国の面積は、ロシア領約12万平方キロメートル、北朝鮮領約6万平方キロメートルであるので、将来「再現される」渤海王国の全面積は実物大で概算48万平方キロメートルに達し、日本の面積の1.3倍に近い。

もし、この地域の人々がこの構想に意欲的に取組めば、その古さと広さに加えて、地域の歴史を大切に再現する学術の高さにおいて、世界の人々の心を惹きつけることが可能であろう。それは学術と観光の双方に新時代を拓くものと思われる。

#### (参 考)

この報告における従来にない新しい考え方

1. 観光におけるモニュメントの効果の重要性を発見し、これを意識的に活用すべきことを主張している。特に歴史的遺産の与える効果は大きいので、観光ルートの形成や観光地の整備にとって重要な要素になることを指摘している。
2. 歴史的遺産の研究、発掘、復元には長い時間がかかるうえ、それらが終了した状態よりむしろその進行過程のほうが興味深い。そのため、研究、発掘、復元の活動そのものを見、知り、これに参加することが観光の中心となる。フィールドにおいて歴史学、考古学などの学術と結び付いた「学術観光」の成立が可能であることを主張している。
3. 数百カ所に散在する遺跡・遺物を統一的、組織的に保全し、研究、発掘、復元するため、実物大で渤海王国の再現を目指すべきことを提言している。それはまた、「渤海王国の再現」をモチーフとする地域づくりとして世界の注目を集め、学術観光の成功要因となることを主張している。

## COMMENT

金 光 林 (新潟産業大学)

私自身、渤海国の地（中国吉林省）の出身であり、渤海国の歴史に関心があったので、両先生の発表内容にとっても興味を持ち、よい勉強になった。そこで自分の不勉強を自覚しながら、先生の発表について次のようなコメントをしたい。

- ① 北東アジア（環日本海地域）における渤海国をテーマにした観光コースの開発構想とその実現の基本方針・計画に賛同し、この構想が今後現実化することを願いたい。
- ② 渤海国をテーマにした観光コースの現実化のためには、まず次のような課題を解決すべきだと思う。渤海国の領土は、現在の中国・朝鮮・ロシアに跨り、歴史上、日本とも深い関係があったので、渤海国は確かに北東アジアの国々の関心の対象である。それでも、現在のところ、渤海国の歴史は特定の学者・歴史愛好者以外の幅広い層の関心は乏しいように思われ、一方、渤海国の現存の遺物はそれほど多くはないし、各地に分散しているので、一般人にも魅力的な観光コースの開発に難点がある。渤海国の領土が現在の複数の国々に跨っていることにより、渤海国の国家的性格をめぐる国家同士の意見の食い違いもあるので、国境を跨る魅力的な観光コースの開発整備に手間が取ることも予想される。そこで、優れた文化遺産を今も多く残している高句麗と渤海国をセットとした歴史遺産観

光コース、それにこれらの歴史遺産の観光を北東アジアの自然・民俗の観光とリンクし、この地域のそれぞれの国々の人たちが参加しやすい環境を作っていくと、この観光コースは現実性を増すと考えられる。

- ③ 渤海国をテーマにした観光コースを現実化していく過程で、まずは研究者・大学生による歴史研究・研修のコースとして渤海国遺跡を積極的に活用し、渤海国と周辺各国との交流をテーマにした多様な内容のイベントを催すのもよい方法だと思われる。日本の対馬・大阪などで催している朝鮮通信使関連のイベントの成功も参考になるところである。
- ④ 渤海国をテーマにした観光コースを現実化する手段として、北京→延吉(中国朝鮮族民俗観光)→長白山(自然観光)→敦化(渤海国遺跡観光)→寧安(渤海国遺跡観光)→牡丹江(中国東北特色観光)→北京、の観光ルート、新潟(日本)・東草(韓国)から海上で→ポシェット湾(ロシア極東特色観光)→琿春(渤海国遺跡観光)→延吉(中国朝鮮族民俗観光)→長白山(自然観光)→敦化(渤海国遺跡観光)→寧安(渤海国遺跡観光)→汪清(森林観光)→琿春(中国東北特色観光)→新潟(日本)・東草(韓国)、の観光ルートを実際に開拓してみようことを提案したい。